



悠然たる流れ

朝日連峰

八久和川中俣沢

栗原 他

【日時】 2014年8月12日～15日

【メンバー】 栗原L 長谷川(純) 矢野

日高への強い憧れも、天気には勝てず、飛行機をキャンセルして内地で転進することにした。天候は不安定と言えど、今回は9日間の長い休みの特権を生かし、一番天気のめぐりの良さそうな12日から、かろうじて天気の持ちそうな八久和川に決める。しかし、出発日の夜に、タクシーでの林道アプローチができないことが判明、ここでも少し彷徨う事態となったが、結局あらかじめ考えていた沢からのアプローチに切り替えての遡行となった。

8月12日

皿漕沢の入渓点で落としてもらい、矢野君に車を下山口に回してもらおう。体力の不安や天気の不安、様々な不安を抱えながらも、とりあえずは入渓できた。あとは遡行に専念するのみだ。

アプローチに使った皿漕沢では、いきなりCS滝のシャワークライムがあり、水の勢いに負けて私だけ登れず、引っ張り上げてもらった。こんな滝ばかり出てきたらどうしようと思っていたが、幸いその後は順調に歩をすすめられた。源頭の池塘をぐるりと巻いて、藪を少々こいで稜線を乗



越す。下降の横沢も、大きな滝はあまりないものの、小滝がちょこちょこ出てくる。巻いたり、クライムダウンしたり、浸かったり。なかなか楽しい。真夏に、このアプローチは正解だったようだ。思ったより早く、12:00に八久和川本流に着いた。雨が降り出さないうちにと、そそくさと本流を右岸側に渡る。

さて、そこからはカクネ沢まで踏み跡があるかと思いきや…見つからない。右往左往して、カクネ沢に着くころには、

私は疲れが出てきた。矢野君は進む気満々だったが、いい具合に雨も降り出したため、小屋跡で幕とした。【栗原 記】

8月13日

今日の目的地は登山道交差点以上。今回の日程中もっとも天気が良いと思われる今日、できるだけ上に行っておきたい。カクネ沢を出てからもしばらくは踏み跡を頼りに右岸を進むが、昨日に続き不明瞭だ。その踏み跡もついに長沢手前の小沢に阻まれていざ本流へ。そこからはしばらく幅広い沢が続き、開放的で気持ちの良い歩き。しかし水量豊富な沢の圧力は大変なもの



で、へつりながら何度も足をさらわれそうになる。そして豪快な滝をかける茶畑沢を過ぎると沢幅は狭まり、圧倒するような激流が次々に現れ、巻きを強いられてしまう。滝ではないが、上から見てもしびれるような流れだ。巻きは難しいものはないが、沢に下りてはまた巻き、の繰り返しで疲れてしまう。巻きの連続を過ぎ、みんな何だかいい加減になってふらふら歩いていた頃、ようやく平七沢が合流し、今日のゴール

が近づいたことを知る。そして16:00、登山道交差点、岩屋沢手前に整地された優良物件を見つけ、今日の宿とさせてもらった。ツェルト設営して早々、栗原さんに頭を下げて、長谷川さんと矢野はそそくさと釣りに出る。八久和に来て釣りをしなかったと言ったら、後で何を言われるかわからない。少しの恵みを得て幕営地に戻り、明日の幸運を願いながら、長い一日を終えた。【矢野記】

8月14日

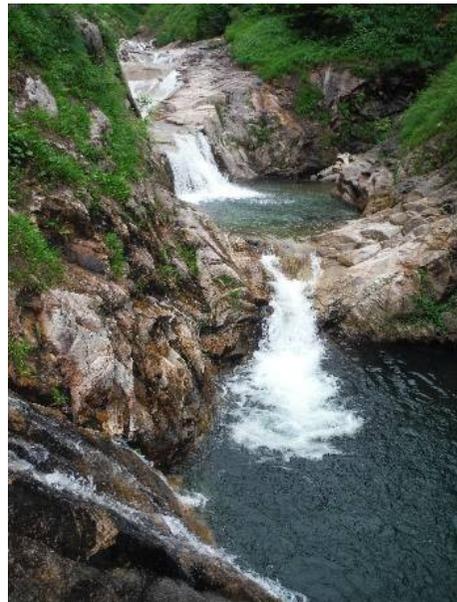
天気は早くもグズついている、なんとか半日持つてもらえればと思いついで出発する。

登山道が交差しているためか、昨日までの雰囲気というか空気感とは違い、人の臭さを感じるようになる。

オツボ沢出合からのゴルジュ帯は水量豊富で勢いも強く、水線通しは厳しい。高巻きの踏み跡を辿る。赤布がしっかりと貼ってあるが結構長いトラバースだった。

コマス滝を巻き終わると大きなブルーシートの屋根が視界に飛び込んできた。釣り人の大所帯が朝食中であつた。少し話をして先を進ませてもらう。

しばらくすると呂滝と言われる滝に出会う。釜はとて大きく深い。潜水艦が潜んでいると言われるのもわかる。時間があれば記念に釣り糸を垂らしてみたいが、今日は時間との勝負なので先を急ぐ。





西俣沢で水量を1対1に分けて、いよいよ中俣沢に入る。入口では地形図にも現れているゴルジュがお出迎えしてくれた。水深は浅く歩いて進むが、水が冷たい。



中俣沢の出合いの滝を登った後は、高巻きを繰り返して進む。

1000 m 辺りから屈曲部を越えて長い雪渓が谷を埋め尽くしていた。これだけの雪があれば、水が冷たい訳だ。雪渓の上を進み、右俣の出合を越えると、目の前に稜線から流れ落ちる連瀑帯が現れる。

それにしても予想に反して天気が良い。朝日の景色を眺めながら休憩してから、連瀑帯に取り付く。巻いたり水際を登ったり、見た目程の難しさはなく楽しい。最後の滝を超えると溪相は突如と穏やかになる。詰めは草原をトコトコ登り狐穴小屋の直下に飛び出した。振り返ると八久和川の溪谷が山を縫って遙か遠くまで延びていた。



小屋の脇で濡れものを乾かしながら、隊長の隠し財産で乾杯をする。小屋でビールを補給して、ポカポカ陽気の中、余韻のひとつを過ごした。【長谷川記】

8月15日

天気が悪化する前にと、早めに小屋を出発する。天気は曇り、この真夏には絶好の下山日和だ。泡滝ダムまで

の長い縦走路を、時折眼下に谷の切れ込みを覗きこみながら、ポクポク下山した。【栗原 記】



【グレード】4級上

【行程】

8/12 皿渕沢入溪点(7:15)～トガラ沢～稜線(9:25)～横沢下降～八久和川合流(12:00)～カクネ沢C1(14:30)

8/13 C1(5:50)～小国沢(9:40)～小赤沢(11:00)～平七沢(15:00)～岩屋沢C2(16:00)

8/14 C2(5:20)～呂滝(7:40)～西

